

常なる磐

つねなる いわ seasonⅢ

令和 5年 2月 17日(金)
その1 通算 305号

◇ 学校表彰 と K先生の願い鶴

2月3日(金)。名古屋市の「^{ウィング}WINKあいち大ホール」で、愛知県教育委員会より【愛知県学校安全表彰】を賜った。県内の表彰校は高校を含めて全7校、三河地区の小学校では、本校のみという大きな表彰である。

表彰対象は、安全に関わる学校の長期的な取組に対する評価で、評価視点は交通安全、学校保健、防災、地域との連携など、安全教育全般を指す。つまり、あらゆる面で学校の安全確保に努め、健全な児童の育成に尽力したという表彰。いわば、長年の取組に対する愛知県からの功労的・感謝状的な表彰である。言うなれば、歴代の校長先生方や勤務していただいた教職員、保護者や見守り隊をはじめとする地域の皆様など、長年にわたり学校安全に寄与いただいた多くの方々への表彰であるとも言えるのだ。関係各位にご報告するとともに、これまでの尽力に深く感謝申し上げたい。



さて、表彰式場で懐かしい方と出会った。西尾市役所・防災危機管理課のK先生である。教員でありながら市職員というのは不思議に思うかもしれないが、いわば出向だ。数年の市役所勤務を経て、学校現場に戻る形。それにしても、教育委員会ではなく一般業務部局というのも珍しい。ところで、K先生は自分の歴任校での同僚だ。K先生とは、わずかに1年の関わりなのだが、自分を見つけるや、すぐに駆け寄ってきて挨拶をしてくれる律儀さは、依然と全く変わらない。

言葉を交わしたのは、ほんの一時。けれども、K先生の顔を見たときに脳裏に浮かんだ「強烈な場面」がある。それがタイトルの【願い鶴】だ。

当時、K先生が担ったのは、ある中学校の3年生の学年主任。

担当する学年の校内での生徒の怪我が続き、学年全体に「落ち着きある空気が必要」だと考えたK先生は、ある方法を考えた。放課時に廊下で生徒が走らない方法だ。詳細は裏面に紹介するが、生徒がみるみる変わっていく。それは、生徒たちが教師の思いを汲み取りながら、生徒自身の心が醸成されていくものだった。【心が変われば、行動が変わる】。K先生のおかげだ。今は心底から、そう思える。

願い鶴

本校には鶴がいる。南校舎の3階、3年生の教室が並ぶ廊下に、二百羽の鶴が一直線に列を成して佇む。羽を伸ばし、首と尻尾を真っ直ぐに立て、じつと動かない。凜とした折り鶴。その姿は、まるで、いつか飛び立つ日のために力を蓄えているようだ。

折り鶴には願いが込められている。3年生の安全を祈る学年主任の思いだ。二百もの鶴をたった一人で折るところに、その願いの大きさが分かる。思いが本物である証だ。

折り鶴の意図を学年主任に問うと、「生徒に、落ちついた姿と心で学校生活を送ってほしくて」と照れながら答えた。方法は他にもあったろう。その中で、学年主任がこの方法を選択した価値は高い。生徒に考えさせ、生徒の心に訴える、実に温かい方法だ。

生徒たちも、すぐに反応した。折り鶴を踏まないように注意して歩く。それでも、不用意に踏んでしまったり、引っかけてしまったりすることもある。きつと、心が痛むのだろう。生徒たちは、形を整え直したり、破損したところをテープで補修したりして対応した。十分な心遣いだ。ところが、生徒が下校した後、学年主任は、傷んだ折鶴をそつと差し替え続けた。意図してではない、うっかりと踏みつけ、傷んでしまった鶴が、翌朝、真新しい姿で佇んでいる。この変化に、生徒たちは気づかないはずがない。

たくさんの鶴が痛んでしまった時のこと。すると、今度は、生徒が自ら動く。皆で手分けして鶴を折り、自分たちで鶴を差し替えた。生徒の誰かが学級に投げ掛け、皆がそれに呼応したのだ。そして、いつか生徒が動くだろうと予測し、さりげなく折り紙を準備していた担任の先生たち。思いが、願いが、つながっているのを感じた。

こんなつながりもあった。大掃除の際には、教室のワックス掛けをするため、生徒机を廊下に出さなければならない。致し方なく折り鶴を外す。それでも、鶴がいなくなることに寂しさを感じた生徒の声により、廊下中央の天井に数十羽の折り鶴が掲げられることになる。折り鶴は、生徒の意識の中で守り神になっていったようだ。

思いは、さらにつながっていく。3年組の学級訓は「全力」。4月に掲げられた「発泡スチロール製の全力」は、「折り鶴で彩られた全力」に姿を変えた。足元に居た鶴が、今は、生徒の頭上に位置を変え、飛び立つ力を蓄えながら生徒たちを見守っている。

本校の3年生は、どの学校の生徒よりも足元を気にしながら生活している。折り鶴のおかげというより、折り鶴に込められた思いに応えた生徒たちの心の成長によるものである。

今日で2学期の締めくくり。鶴の存在は、3学期を残すのみとなった。心を育んだ3年生が本校を巣立つのと同時に、鶴も飛び立つ。そして卒業後は、落ち着きをもたらす「目には見えない心の鶴」が、生徒たちの心の中で生き続けていくことだろう。